

The Japanese Society for Time Studies

日本時間学会ニュース H30 年度第 1 号 (平成 30 年 4 月)



発行人 日本時間学会 会長 一川 誠
〒753-8511 山口市吉田 1 6 7 7 - 1
日本時間学会 TEL&FAX:083-933-5439
(山口大学時間学研究所内)
mail@timestudies.net
<http://timestudies.net/>

日本時間学会会員の皆様には、ますますご清祥のことと存じます。春分を過ぎ本日からは清明を迎える候となりました。今年是好天に恵まれ、思いがけなく長い期間お花見が堪能出来たと思います。この桜前線も日本列島を縦断し、早くも桜吹雪が舞う地域もあるようです。東北・北海道地方の皆様にとっては、桜を待つ時間もまた楽しみとなることと思います。

さて、今年度の大会、第 10 回記念大会 (千葉大学) のほうも準備が整って参りましたのでご案内申し上げます。

◆第 10 回大会参加者の皆様へのご案内◆

◇受付 午前 9:20~千葉大学文学部 101 講義室前にて受付を致します。

◆年会費・・・・・・・・・・¥3,000 (一般会員) /1,500 (学生会員)
(未納の方は当日承ります)

◆大会参加費・・・・・・・・・・¥2,000

◆情報交換会費・・・・・・・・・・¥4,000

◇昼食 大会開催中 9 日 (土) 10 日 (日) 学内食堂は営業していませんので、昼食は予めご準備ください。西千葉駅前など周辺に飲食店は多数あります。

◇情報交換会 大会 1 日目、9 日 (土) シンポジウム終了後
18:00~20:00 大学会館内レストランコルザ (会費 4,000 円) にて。
当日参加も受け付けますので、是非ご参加ください。
学生会員の方は無料参加できますのでご遠慮なくお申し出ください。
なお、今年度は日本時間学会ロゴマークコンテストの授賞式を情報交換会
の中で行います。

ご挨拶

第10回記念大会開催にあたって



今年の大会は、第10回の記念大会となります。例年、「時の記念日」である6月10日に近い日程で大会期日を設定しておりますが、本年はその「時の記念日」を含む6月9日、10日の2日間にわたって千葉市の千葉大学西千葉キャンパスで開催されます。

今回の第10回大会では、会員の皆様による一般発表のほか、特別企画として時間学公開学術シンポジウムと特別講演が予定されています。一般発表では、前回大会に引き続き、口頭発表の他、ポスター発表も選択できる形式で開催いたします。ポスター発表では、発表者とオーディエンスが直接に議論できる形式ですので、特に他の参加者からの多様なコメントを得たい発表者には有効な形式と思います。参加者同士の交流の場としても積極的に利用していただければと考えております。

今回の時間学公開学術シンポジウム『心的時間の諸特性とその基礎—時間はどのようにして体験されているのか?—』は、私自身の企画によるものです。心的時間特性に関する気鋭の研究者である山本健太郎先生（九州大学）、四本裕子先生（東京大学）、林隆介先生（産業技術総合研究所）の御三名に話題提供いただきます。また、昨年度の時間学公開学術シンポジウムに引き続き、山口大学時間学研究所の寺尾将彦先生にも指定討論者としてご協力いただく予定です。私たちが体験する時間がどのような特性を持っているのかに関して、最新の研究成果が紹介、解説されるものと期待しています。

大会2日目の特別講演では、国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）理事の細川瑞彦先生に、「世界の標準時と原子時計最先端」というタイトルでのお話を願っております。極限まで正確さを追求した時計開発の最先端と私たちにとっての時間に関して考える材料を得られる機会になるものと思います。なお、この特別講演はセイコーホールディングス株式会社様に協賛していただいております。このような形での特別講演の開催も新しい試みです。

さらに、今年の大会が第10回の記念大会ということで、それに合わせた様々な企画も準備されております。第1に、学会誌『時間学研究』に掲載された論文の中から論文賞を選出し、表彰する予定です。第2に、学会のロゴマークデザインのコンテストを開催しましたが、こちらも応募作品の中から今後日本時間学会で使用するロゴマークを選出し、表彰します。会員の皆様と、千葉大学西千葉キャンパスで開かれる第10回大会でお会いすることを楽しみにしております。

日本時間学会会長、第10回大会実行委員長 一川誠

一川 誠

2018年度 時間学公開学術シンポジウム

『心的時間の諸特性とその基礎』—時間はどのようにして体験されているのか?—

日時：平成30年6月9日（土）14：30～（開場14：00）

会場：国立大学法人千葉大学文学部棟105講義室（千葉市稲毛区弥生町1-33）

【シンポジウム概要】

時間は、空間とともに、人間感性の基本的次元とみなされています。時間のない状態を体験することは難しいことでしょう。このことも、時間が私たちの主観的体験にとって特別な意味を持つことを示しています。

しかしながら、私たちの知覚認知系は、時間の長さや事象の生起した時点など、時間的な諸特性についての一義的な情報を得ているわけではありません。私たちは、一定のペースで正確に時を刻む時計のような身体的過程を持っていません。そのため、ある瞬間とそれに続く別の瞬間に得られる体験の間の時間間隔や、その都度の事象の生起した時点について、正確に知ることはできません。実際、時間の長さや時点に関する知覚はしばしば事象の実際の時間的特性と異なることがあり、これは錯覚と呼ばれています。

こうした時間に関する錯覚は、体験される時間の特性は、不規則に決まるのではなく、様々な要因に対応して、ある程度規則的に決定されていることを示しています。そのため、時間に関する錯覚にある「規則性」の中に、我々の知覚認知系がどのように時間を体制化しているのかを理解する上での手掛かりが隠されているものと考えられます。

体験される時間の規則的な「間違い」から、知覚系による時間についての体制化の戦略について解明しようとする試みが行動科学的手法を用いる心理学や神経科学において進められています。今回のシンポジウム企画では、こうした分野において主導的研究を行っている3名の研究者に、心的時間の一般的特性と、最近の研究動向について紹介していただきます。本企画を通して、時間に関する体験はどのように形成されるのか、我々にとっての時間とは何かについての議論を深めることができると考えています。（一川誠）

【講演予定者】

【スケジュール】

14:00～開場
14:30～開会
14:45～講演
15:30～講演
16:15～休憩
16:25～講演
17:10～討議・質疑
17:40～閉会

◎コーディネーター：一川誠（千葉大学）

◎指定討論者：寺尾 将彦（山口大学時間学研究所）

講師：山本 健太郎（九州大学大学院人間環境学研究院）

「心的時間における認知的基盤」

講師：四本 裕子（東京大学総合文化研究科）

「時間知覚と脳内ネットワーク」

講師：林 隆介（産業技術総合研究所システム脳科学研究グループ）

「視覚情報の階層的な処理とその時間的統合について」

第 10 回記念大会スケジュール

会場：千葉大学文学部 101 講義室（千葉市稲毛区弥生町 1-33）

会期：平成 30 年 6 月 9 日(土)～10 日(日)

第 1 日目 6 月 9 日（土）文学部 101 講義室

10:00～ 開会
挨拶 日本時間学会長 一川 誠
スケジュール説明 第 10 回大会実行委員長 一川誠

10:20～12:00 口頭発表 セッション I

12:00～ 休憩・昼食



12:00～ 理事会:会場：法政経学部第 2 会議室

13:00～ ポスターセッション I

13:30～ 総会：101 講義室

14:00～ 開場

14:30～ 山口大学時間学研究所主催

総会で新入会員の紹介を行います。



時間学公開学術シンポジウム：文学部 105 講義室

『心的時間の諸特性とその基礎』—時間はどうのようにして体験されているのか？—

18:30～20:30 情報交換会・日本時間学会ロゴマークデザインコンテスト受賞式
大学会館レストランコルザ 参加費 4,000 円（当日徴収）

第 2 日目 6 月 10 日（日）文学部 105 講義室

10:00～12:00 時間学特別講演 細川瑞彦 国立研究開発法人情報研究通信機構理事
「世界の標準時と原子時計最先端」

特別協賛：セイコーホールディングス株式会社

ディスカッション

【学会発表は午後より文学部 101 講義室で行います】

12:00～13:00 休憩・昼食

13:00～14:00 口頭発表 セッション II



14:00～15:00 ポスターセッション II

コーヒブレイク



15:00～16:20 口頭発表 セッション III

16:30 閉会

【日本時間学会第10回大会 特別講演 概要】

「世界の標準時と原子時計最先端」

特別協賛：セイコーホールディングス株式会社

日時：平成30年6月10日（日）10：00～11：00

講師：細川瑞彦先生 国立研究開発法人情報研究通信機構理事

略歴：

1988年3月 東北大学大学院理学研究科原子核理学専攻
後期課程修了（博士）

1990年4月 郵政省通信総合研究所

2000年4月 郵政省通信総合研究所 標準計測部原子標準研究室長

2006年4月 独立行政法人 情報通信研究機構 光・時空標準グループリーダー

2016年4月 現職



コメント：

標準時を定める原子時計は近年、光の技術で急発展しています。

光格子時計など最近話題の原子時計と標準時についてお話したいと思います。

要旨：

1967年の秒の定義改定以来、標準時は原子時計を用いて定められてきている。

当初は原子と電波の共鳴を用いていた原子時計は、光の技術の発展により、原子とレーザー光との共鳴でさらに正確さが向上してきている。

セシウム原子と電波、という組み合わせから別の原子とレーザー光、という組み合わせに秒の定義が改定される日もそう遠くないと考えられており、実際に、光格子時計などが標準時にも影響を与え始めている。

本講演では、原子時計の基礎的な原理と、標準時構築の仕組み、さらに光格子時計など最新の光時計と、それがどう標準時構築に関わりつつあるかを、日本が大きく貢献していることも含めてお話したい。

【ディスカッション】 11：00～12：00

細川瑞彦(国立研究開発法人情報研究通信機構理事)

司会進行：藤澤健太（山口大学時間学研究所長）

指定討論：滝澤勝由（セイコーインスツル株式会社ムーブメント事業部時計設計部長）

：一川誠（日本時間学会会長・千葉大学教授）

